

治験期間中

治験に参加すると

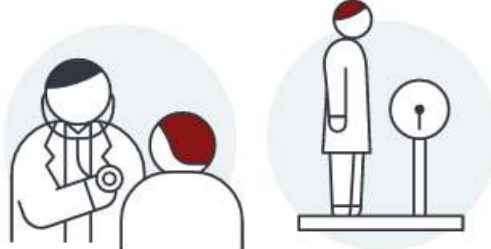
治験に参加することが決まると、より詳しく診察や検査が行われます。治験薬を服用していただき、その効果、体調の変化、副作用の有無などが確認されます。治験がどのぐらいの期間続くのかは、治験によって異なります。1週間程度の短いものから、1年以上にわたるものまであります。

治験期間中の流れ

治験参加者



治験責任医師



同意後、治験参加者が条件に合致するか、血液検査、心電図やレントゲンなどの結果をみて、判断されます。



治験薬の投与を開始します。治験薬は飲み薬や注射など様々あり、治験責任医師の指導のもとで投与されます。



治験参加への適合性に問題がなければ、治験が開始されます。



定められた検査（採血や心電図測定など）を行い、身体への影響を確認します。

治験期間中は、定期的に治験責任医師が診察を行い、効果の確認や、副作用が現れていないかの確認を行います。副作用が出た場合は治験を中止することもあります。

タケダが描く、これからの治験

治験により参加しやすくするために、そのハードルをより低く。

治験に参加すると、診察や検査のために、定期的かつ頻繁に医療機関への通院が必要でしたが、一部の診察や検査はご自宅でも行えるようになりつつあります。

診察と看護

Telehealth/Telemedicine：オンライン診療
Home Healthcare：訪問看護の実施

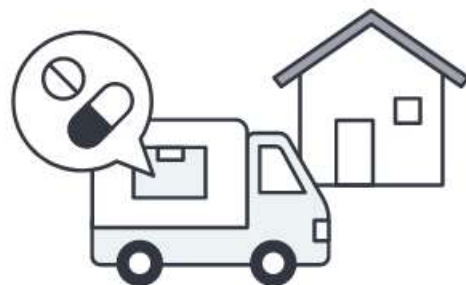
治験参加者が高齢者や子どもの場合、通院には付き添いが欠かせません。付き添いのために、参加者の方のご家族が仕事を休まなければならないこともあります。近年は、医師のオンライン診察や、看護師が参加者の方の自宅に訪問し、血圧の測定や採血を行うことが可能になりつつあります。



薬の提供

Direct to Patients：患者さんへの治験薬の直送

自宅で診察や検査が受けられても、治験薬をもらうために通院しなければならないのでは負担になります。そこで、治験参加者のご自宅に治験薬と一緒に併用する薬を直送する試みが行われています。



経過観察

Wearable Device：スマートデバイスによる情報取得

自宅に居ながらにして血圧などの生体反応データが収集され、治験責任医師にそのデータが転送されます。より多く回数を測定することもできますので、治験参加者の体調の変化をきめ細やかに把握することができ、参加いただく方の安心感を増すことも考えられます。



Satellite Site：近隣医による治験協力

治験実施医療機関が遠方にある場合などで、自宅近くの病院やクリニックで、治験期間中の診察や検査を行う仕組みです。治験参加者の負担は大きく減ることになります。また、オンライン診療に比べ、対面で診察することで、わずかな変化や兆候も見つけることができるかもしれません。診察や検査の結果は治験責任医師に報告されます。

